



みどりの風

令和元年5月7日発行
校報 第563号
(みどりの風 第106号)
練馬区立関町北小学校

文化の継承、そして創造へ

校長 大野 泰弘

5月1日、元号が「平成」から「令和」になり、新しい時代の幕開けとなりました。「令和」という言葉が万葉集を出典としていて、そこには、「人々が美しく心を寄せ合う中で、美しい文化が生まれ育つ。梅の花のように、日本人が明日への希望を咲かせることのできる、平和な国でありますように。」という願いが込められていることは、改めて繰り返すまでもないでしょうが、この「令和」の時代の中心を担っていくのが、現在学校で学んでいる子どもたち一人一人です。

その子どもたちが何を、どのように学び、どのような資質能力を伸ばしていくことができるのか、そのための学校教育の在り方がこれからも問われてまいりますので、新時代を迎え、慶祝の思いを表すだけでなく、襟を正して日々の務めを果たしていかなければならないと感じています。

さて、せっかくの10連休でしたので、令和の時代にどのような新しい文化が開花するかは分かりませんが、これまでに継承されてきた我が国の文化に少しでもふれてみよう、と「團菊祭五月大歌舞伎」を鑑賞させていただきました。この「團菊祭」は昭和11年に、明治36年に亡くなった九代目市川團十郎と五代目尾上菊五郎の没後33年にあたるのを機に始まったとのこと。そして、この九代目團十郎と五代目菊五郎の二人が、明治維新・開化の時代にあって、400年を超える歌舞伎を大きく変革していったのだそうです。この二人が、それまでの歌舞伎を当時の人々の感性に合うように創り上げていったことが、現在の歌舞伎界の大きな発展に繋がったのだと言われていいます。その九代目團十郎が舞台の中で創造した代表的な人物の一人が、「勸進帳」における「武蔵坊弁慶」だったのだそうです〔上村以和於氏の資料より〕。

そして、今回弁慶を演じたのが来年十三代市川團十郎白猿を襲名する市川海老蔵さんでした。この「勸進帳」は、能の「安宅」をもとにつくられた人気狂言ということで、天保11年(1840)に七代目市川團十郎により初演されて以来、歌舞伎十八番の中で屈指の人気を誇っていますが、弁慶の「勸進帳の読み上げ」、富樫左衛門との「山伏問答」、「延年の舞」、「飛び六方」などには、来年團十郎を襲名する海老蔵さんの気迫、熱意などが、歌舞伎のことを殆ど理解できていない素人の私にもひひしと伝わってきました。令和元年の團菊祭で、市川海老蔵として最後の弁慶を演じ、来年には十三代團十郎を襲名する、そこには時代の巡り合わせが感じられ、きっと歌舞伎界の中心を担う一人として、大きな使命感ももっていらっしゃることでしょう。海老蔵さんは、「いつの時代も、歌舞伎をどのように守っていくかを考えなくてはいけないと思っています。新元号のもと団十郎を襲名できることは、心機一転、芸道に邁進できる気がしております。」と語っていらっしゃいますが、九代目團十郎や五代目菊五郎が、時代の流れを読んで、歌舞伎の世界に新風を吹き込んだのと同様、歌舞伎界の大名跡を担う決意が窺えます。そこには、歌舞伎が、長い歴史を経ても、どんなに伝統があっても、なお、歴史の転換点で来たるべき時代に合うように変化し続けていることが感じられました。

では、新しい時代を迎え、学校文化はどのように変化していくのだろうかと考えてみました。我が国の学校制度は、明治、大正、昭和、平成と、歌舞伎界には及ばないものの百年以上続いてきています。太平洋戦争後には、明治維新以来となる、大きな教育の転換点も迎えました。我が国の初等教育の質の高さは世界が認めているところですが、子どもたちは、学校という場に集団で学ぶことにより、例えば、互いに協力し、助け合う意識、故郷や歴史・文化などを尊重する態度、他者への思いやりや謙譲を美德とする深い精神性などを育ててきたと言えます。

しかし、平成の時代までのこういう学校の文化を継承しながらも、今後ますます加速されるであろう、高度情報化、グローバル化などの社会的な変化に柔軟に対応できる環境も創造していかなければなりません。一つの学校でできることには限界がありますが、九代目團十郎や五代目菊五郎のように、従来の文化のよさを生かしながら、新たな時代に応じた価値や感動を生み出していくことができれば、子どもたちにとって学びがいのある学校文化を生み出すことにも繋がるのではないかと思います。新たな「令和」の時代を生きる子どもたちが時代の中心、文化の担い手となり活躍するときに必要とされる資質能力を確実に身に付けられるように、これからも小学校学習指導要領に基づいた日々の授業改善に努めながら、教育の質の向上をめざしていきたいと考えています。

そして、保護者、地域の皆様と共に、開校60周年記念行事や校舎等全面改築を生かし、新たな関町北小学校の学校文化の創造を図ってまいりたいと考えております。